

第1学年国語科学習指導案

平成16年10月5日(火) 第2校時

1年1組(男子12名,女子11名,23名)

指導者 澤田 祐子

- 1 単元名 すきなものをしらせるね
教材名 「ぼくんちのゴリ」 笠野 裕一
「よく見てかこう」

2 単元について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、「書くこと」の学習では、ほとんどの児童は平仮名を覚え、単語や文章を書くようになってきた。自分の書きたいことを文字が抜けたまま書き表している児童もいる。片仮名も読んだり書いたりする児童も増えてきている。1学期の「てがみをかこう」では、友達や家の人に学校のことを知らせる短い手紙を書き、2学期に取り組んだ「じどう車くらべ」の自動車図鑑では、自動車のしごとやつくりについて自分で文章を考えて書くようになってきた。また、短い文章であれば考えたことや思ったことを入れて書くようになってきた児童もいる。

「読むこと」の学習では、前単元「くじらぐも」を楽しみながら様子を想像して読むようになってきたが、語や文のまとまりとしては読んでいても、教師の発問によって内容をとらえようとしている児童が多い。少しずつ文章から大切なことを見つけたり、内容の大体を読み取ったりするようになってきた。

(2) 単元のあらまし

本単元の指導内容は以下の通りである。

B 書くこと

イ 書こうとする題材に必要な事柄を集めること。

オ 文章を読み返す習慣をつけるとともに、間違いなどに注意すること。

本単元の前の学習では、「書くこと」の学習においては、1学期の「てがみをかこう」という題材を通して「ア相手や目的を考えて書くこと」を指導してきた。また、「読むこと」の学習においては、「じどう車くらべ」の教材を通して「イ時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むこと」、「くじらぐも」の教材を通して「ウ場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと」、「エ語や文としてのまとまりや内容、響きなどについて考えながら声を出して読むこと」を指導してきた。

本単元の学習では、身近な物事について書く対象をよく観察して取材することや、児童が取材したことをもとに目的や相手に応じて適切に文章を書くことをねらっている。

本教材「ぼくんちのゴリ」は「ぼく」という語り手が、読者に愛犬「ゴリ」について親しげに語りかける文章である。この教材の学習を通して、観察するときや取材するときの観点を学習することができる。これをもとに、「よく見てかこう」では、自分の好きなものについて取材した題材例であり、児童が書く紹介文の例となるものである。また、会話文が入っている文章で、かぎの使い方等を学習することができると思う。

(3) 指導に当たって

この学習では、教材文「ぼくんちのゴリ」を音読の活動を通して、様子を表す言葉について学

習したり，ゴリの様子を文章から読み取ったり，取材の観点を児童がはっきりもつようにしたりする。また，意欲をもつようにゴリの様子について動作化を取り入れながら読み取り，「ゴリカード」に書くようにしていきたい。「ゴリカード」を書くことで取材の観点を学習し，次の「好きなものカード」を書く手掛りにしたいと考える。

「好きなものカード」には日常生活の出来事から取材して書くこととするが，何を書くか迷っている児童には，興味があることや家庭での出来事などを想起するように声掛けをする。さらに「好きなものカード」に書いたことをもとに学級の友達や家の人に紹介することを意識して，紹介文を書くために書く時間を十分に取る。また，書くことに慣れるために，教師が題材を提示し，カードを書いて紹介文を書く時間を好きなものについて紹介文を書く前に設定する。

三つの手立て		具体的な取り組み
1	学習への意欲と見通しをもたせる導入の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や家の人に紹介する文章を書くことを意識付ける。 ・児童が学習の見通しをもつように，学習計画を児童とともに立てる。
	既習事項の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返るとともに，本時の課題や活動を意識付けるために前時に作ったカードを提示する。
2	学び合いを充実させるための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作ったカード（「ゴリカード」「好きなものカード」）の内容を交流したり，深めたりするためにペアや小グループでの活動を設定する。
	よりよい考えを練り上げていくための工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・取材の観点がはっきりするように，教材文について話し合う活動を設定したり，児童が分かりやすいように板書を整理したりする。 ・カードや紹介文について児童が互いに見合って内容を交流したり，深めたりする活動を設定する。 ・児童が書いたカードや紹介文について，児童と話しながら詳しくしたり，付け足すことを書き込んだりするように声掛けをする。
3	振り返りの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習について，カードを書く観点が分かったか，いろいろな観点からカードや紹介文を書いたかについての自己評価を挙手や感想発表で行うようにする。

3 単元の目標

文章を読んで，自分の好きなものを知らせることに興味をもち，進んで紹介文を書こうとする。

好きなものを観察して紹介文を書き，友達や家の人に知らせる。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・好きなものを知らせることに興味をもち，進んで知らせたいものについて文章を書こうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼくちのゴリ」を読んだ後で，好きなものを観察して必要な事柄を集め，文章を書いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼくちのゴリ」の様子を想像しながら内容の大体をつかんで読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・句読点の打ち方や，かぎ「」の使い方を理解して文章の中で使っている。

5 単元の指導計画（指導時数：11時間）

時	小単元	学 習 活 動	評 価 規 準
1 2 3	「ゴリカード」を書こう	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぼくんちのゴリ」を楽しく読む。 ・学習計画を教師と一緒に立てる。 ・内容を読み取るために「ゴリカード」を書く。 ・友達と「ゴリカード」を見せ合う。 	(関)好きな動物や植物について相手に知らせようとしている。 (読)教材文を読んで、内容を「ゴリカード」に書き出して読んでいる。
4 5	「好きなものカード」を書こう	<ul style="list-style-type: none"> ・「好きなものカード」の書き方を知る。 ・友達に紹介したい好きなものを見つけて「好きなものカード」を書く。 	(書)「好きなものカード」に書き込んでいる。
6 7 8 (本時) 9	好きなものを紹介する文を書こう	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が提示した題材に対してカードを作り、家の人に紹介する文章を書く。 ・教材文を参考にしながら、「好きなものカード」をもとにして書くことを選び、学級の友達や家の人に紹介する文章を書く。 	(書)「好きなものカード」から、文章を書いたり、文章を読み返して間違いを直したりしている。 (言)文章を見直して、句読点やかぎ(「」)の使い方、表記などを確かめている。
10 11	好きなものを紹介しよう	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を読み直して書き直したり、発表の練習をしたりする。 ・友達に分かるように発表する。 	(関)自分の書いた文章について、相手に知らせようとしている。

6 本時の指導

(1) ねらい

「好きなものカード」を見ながら、好きなものを学級の友達や家の人に紹介する文章を書くことができる。

かぎや句読点の使い方に気をつけて文章を書くことができる。

(2) 展開

段階	学習活動	教師の指導・支援	評価【手立ての評価】
つ か む 5 分	1 前時の学習を想起する。 (学習の意欲を持たせる導入の工夫) 2 本時の学習課題を立てる。 (見通しを持たせる導入の工夫)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が前時の学習を想起するように、前時に使ったカードを黒板にはったり、紹介文を提示したりする。 ・カードで吹出しに書いていることが、紹介文では「」を使って書いていることを意識付ける。 ・児童が学習課題を立てるように、学習計画や「好きなものカード」を提示する。 ・2時間の取り組みであることを話し、学習課題を考えるように声掛けをする。 	【児童が書いたカードや紹介文の提示は効果的だったか】
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> ともだちに すきなものについて かいて しょうかいしよう。 </div>		

見 通 す 5 分	3 本時の学習内容を確認する。 書く内容 書くときの観点 ・読んで分かるように書くこと ・かぎ ・句読点	<ul style="list-style-type: none"> ・「好きなものカード」をもとにして紹介文を書くことを確認する。 ・書く意欲をもつように、書いた後、友達やお家に人に紹介することを意識付ける。 ・「好きなものカード」に書いた文章をつながながら書くこと、かぎを使う会話文を入れること、句読点をつけることを板書で確認する。 	
深 め る 30 分	4 好きなものの紹介文を書く。 一人で好きなものの紹介文を書く。 (一人学び) ペアで紹介を聞き合う。 (学び合い) 好きなものの紹介文を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・「好きなものカード」をもとにしながら書くように声掛けをし、机間指導をする。 ・平仮名がうまく書けずにいる児童には、書きたいことを聞きながら教師が言葉を書いて提示したり、抜けている文字を指導したりする。 ・会話文が入っているか、句読点の付け方がよいか、分かりやすい文章かどうか等を児童に声掛けをしていく。 ・隣の席の友達と原稿用紙を見せ合ったり、書いたところまでを話したり、友達が書いた内容や言葉についてアドバイスをしたりするように声掛けをする。 ・友達からアドバイスを受けたことや自分で気付いたことを書き足すように声掛けをする。 	(書)「好きなものカード」から、文章を書いたり、文章を読み返して間違いを直したりすることができる。 (紹介文) 【ペアでの活動は効果的だったか】
ま と め る 3 分	5 学習課題についてまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・会話文や句読点に気をつけて書いたかどうか、本時の学習を考えるために、板書を活用する。 ・次時の意欲付けをするために、次時は紹介文を書く時間の最後であることを話したり、友達や家の人に好きなものを紹介したりすることを話す。 	
振 り 返 る 2 分	6 本時の学習を振り返る。 (振り返りの工夫)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習がどうだったかを考えるために、紹介文を頑張って書いたか、友達のアドバイスや自分で気づいて直したことがあったかを教師と一緒に考え、挙手で自己評価するように声掛けをする。 	【挙手による自己評価は効果的だったか】

(3) 具体の評価規準と指導の手立て

観点	A	B	Bに至らせるための手立て
書く能力	<ul style="list-style-type: none"> 好きなものについて、「好きなものカード」をもとにさまざまな観点から紹介文を書いたり、かぎや句読点の付け方に気を付けたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 好きなものについて、「好きなものカード」をもとに三つの観点から紹介文を書いたり、かぎの付け方に気を付けたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導で分からない言葉やうまく書けずにいる言葉を書いて提示したり、声掛けをしたりする。 書きたいことを話してから書くように声掛けをする。

7 板書計画

かくしゅうけいかく

- 一 「ぼくんちのゴリ」をよもう
- 二 「ゴリカード」をかこう
- 三 「すきなものカード」をかこう
- 四 すきなものについてかいてしょうかいしよう
- 五 すきなものをしょうかいしよう

- ・ かぎ「」をつけよう
- ・ てん、や まる。に きをつけよう

すきなものカード
ともだちに
おうちの人に しょうかいする

すきなものをしらせるね

ともだちに すきなものについて
かいて しょうかいしよう